

令和4年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	みやき町立三根西小学校
1 前年度 評価結果の概要	今年度も引き続き、体育に関する研究に取り組む。前年度の校内研究の成果を生かし、学び続ける方法や意欲を他の学習指導でも生かしていきたい。最終評価の段階では、ほとんどの項目で成果指標を達成することができた。しかし、「健康・体づくり」の項目で「運動習慣の改善や定着化」に関する取組は、成果指標にとどいていなかった。また、運動能力に関する結果には依然として二極化傾向が見られた。コロナ渦を前提に、工夫をしながら体力向上の取組を活性化していきたい。
2 学校教育目標	やさしく、かしこく、たくましい三根っ子の育成
3 本年度の重点目標	①やさしい子を育む（思いやりを持ち、助け合う子供の育成） ②かしこい子を育む（進んで学び、よく考える子供の育成） ③たくましい子を育む（生き生き活動する元気な子供の育成）

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の推進を図る。	B	・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は80%。今後さらに、成果指標を意識した授業づくりを進めている。	B	・90%の教師が、毎時間自分の考えを表現する時間を確保し、ほとんどの児童は自分の考えと友達の考えを比べながら、書いたり発表したりすることができている。しかし、習熟や振り返りの時間は十分ではなかった。	B	・表現力は一朝一夕には身に付かないので、6年間を見こした指導を考えた方がよい。 ・特に1年生への言葉の指導をしっかりと、表現力を身に付けさせてほしい。	【学び部】 ・学力向上コーディネーター ・研究主任
	○校内研究の推進	○授業力が向上したと回答した教師85%以上	・年間指導計画の見直しを行う。 ・学習指導案の形式の精選を行う。 ・めあて、見通しが分かる授業を行う。	A	・年間指導計画や指導案形式、指導のポイント等、全員の共通認識のもと見直しを進めることができている。 ・学年部での授業づくりを行っており、複数体制での研究を進めることができている。 ・低中高学年での研究授業や公開授業を通して、運動の特性に触れさせながら、対話的な学びを促進することができた。	A	・計画通り、低中高学年での研究授業及び授業研究会を行った。指導と評価を繰り返しながら、よりよい授業づくりを全校で進めることができた。 ・体育の授業を楽しむ児童が増えた。しかも、課題解決のために友達との関わりを増やしなが活動できる児童も増加した。 ・随上運動系領域の単元計画や学習カード等の蓄積を図ることができた。	A	・体育は、体力差や技術の差が明らかになりやすい教科なので、これからも個人差に配慮した授業をして「体育が楽しい」という子を増やしてほしい。 ・できる子からアドバイスをもらおうというやり方は、児童同士のつながりができてよい。アドバイスを受けた方は技能や記録の向上につながり、アドバイスしたほうは自信がついてよいと思う。	【学び部】 ・研究主任 ・学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・道徳に関するアンケートを年に2回実施する。 ・仲良し集会や縦割り活動を行い、自己肯定感や自己有用感の高揚を図る。	B	・道徳に関するアンケートを年に2回実施する。 ・道徳アンケートの実施1回目を実施した。1月に2回目を実施する予定。 ・ふれあい道徳実施予定。 ・「こころの集会」や「平和集会」をリモートで実施している。	B	・週1時間の道徳の授業を実施し、ふれあい道徳は年1回実施した。 ・道徳アンケートは、肯定的回答が約95%だった。 ・コロナ感染症予防に努めながら、できる形での集会活動、縦割り活動を実施した。	A	・授業参観で道徳の授業を見ることが、道徳に対する保護者の理解につながっている。 ・心を育てる指導は、継続することが大切。授業で話し合ったり考えたりしたことが、生活の中で生かせるようこれからも指導してほしい。	【ほかほか部】 ・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的に対応できていると回答した教員85%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。	A	・毎月いじめアンケートを取り、いじめの早期発見に役立てようとしている。 ・夏休みにいじめについての職員研修会を行い、いじめの認識の共通理解を図ることができた。また、職員連絡会や職員会議で、必要に応じて話し合いを行った。 ・町主催の職員研修を受けて、各学級で「いじめの避難訓練」の授業を行うことができた。	A	・毎月心のアンケートを実施した。まず、担任が聞き取り早期対応に努めた。更に、担任だけでなく、生徒指導担当、養護 教諭、管理職で対応することができた。 ・今年度は、定期的に生徒指導協議会を開催することにより、生徒指導について情報共有できた。	A	・定期的にアンケートをとることは、いじめの早期発見などにつながり、よいことである。 ・アンケートによって親が知らなかったことが明らかになることもあるので、ぜひ継続し、家庭とも連携してほしい。 ・アンケートは、友達とのトラブルや悩みを書く、他の子に知らせると不安が子供の中にあるかもしれない。そうした不安を取り除くためにも、アンケート	【ほかほか部】 ・生徒指導担当者 ・教育相談 ・管理職
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90%以上	・キャリアパスポートの活用を図り、年度初めに立てた年間の目標に対して、振り返りを行い、達成度を自己評価をさせる。 ・「夢の教室」や道徳を通して、児童に夢をもつことや、夢に向かって努力することの大切さを、実感させる。	・キャリアパスポートの活用を図り、年度初めに立てた年間の目標に対して、振り返りを行い、達成度を自己評価をさせる。 ・道徳の授業では、全学年において「希望と勇氣、努力と強い意志」などに関する内容を実施している。	B	・全ての学級がキャリアパスポートを使って年間目標を設定している。また、ほとんどの学級で、1学期の振り返りや行事における目標設定や振り返りを通して、自己評価を行わせている。 ・道徳の授業では、全学年において「希望と勇氣、努力と強い意志」などに関する内容を実施している。	A	・キャリアパスポートの年間目標に対する振り返りを、前期と後期で一枚にすることで、年間の目標を意識し、振り返ることが容易になった。 ・「将来の夢や目標を持っている」についての肯定的な回答をした児童は、95%以上だった。	A	・志を持つ指導は大切なこと。大きな目標や夢だけでなく、身近なことにも目標を持って達成できるようになってほしい。 ・ほとんどの子供が、将来の夢や目標を持っているのは、すばらしい。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童95%以上	・食育の授業を年間1回以上、各学級で行う。 ・朝の健康観察で、朝の喫食の実態把握を毎日行う。	B	・食育の授業は、3・4年生は実施している。1・2・5・6年生は今後実施予定。 ・朝の喫食の実態把握は、アンケートを実施したり、健康観察時に呼び掛けを行ったりしている。	A	・全国学校給食週間の取り組みの一環として、全クラスで食育に関する授業を実施した。 ・今年度もコロナ禍で、感染しない食べ方等を各クラスで日々指導した。 ・朝の喫食の実態把握は、年間を通して、健康観察時の呼び掛けをしったりアンケート実施を行ったりすることでできている。アンケートでは、「健康に食事は大切である」と考える児童は100%、朝食の喫食率は98.7%であった。	A	・食べることは生きることなので、これからもしっかりと指導してほしい。 ・コロナ禍で、給食の指導も大変だったであろうが、学校でよく指導してもらっていると思う。 ・朝食の喫食率は高いが、「何を食べているか」も大事。	【ほかほか部】 ・食育担当 ・体育主任
	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間でも420分以上の児童80%以上	・縦割り縄跳び大会を行い、運動に対する意欲を高める。 ・チャレンジスポーツの紹介をし、スポーツに取り組む機会を推進する。	・縦割り縄跳び大会を行い、運動に対する意欲を高める。 ・チャレンジスポーツの紹介をし、スポーツに取り組む機会を推進する。	B	・1学期はスポーツを推進する取り組みを進めることがあまりできなかったため、委員会の活動を通してチャレンジスポーツなどを中心とした運動への取り組みを推進していく。 ・放送等を通して、天気の良い日には外へ出て体を動かすよう呼び掛けをすることができている。	A	・今年度は、昨年度に比べるとコロナの状況も落ち着きつつあり、運動に親しむ機会が多少回復した。その結果、授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童は82%だった。コロナ禍でも縦割り縄跳び大会を行ったり、委員会を中心に放送で運動を奨励する放送やスポーツ大会を実施したりして、運動の楽しさを味わわせている。	A	・コロナ禍の中で、対策を取りながらよく指導してもらっている。異学年が交流できる縦割りの活動は今後もぜひ継続してほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日や学校閉庁日を設定する。 ・衛生委員会等を通して、勤務実態の共有を図り、業務改善の意識を高める。 ・校務シェアボードや校務サーバー等のICT機器の利活用を推進し、会議の時間短縮や分掌事務の効率化を図る。	B	・お盆の週が学校閉庁日になったことにより、リフレッシュを図ることができた。 ・勤務実態の共有を促し、業務改善を行ったことにより、退勤時刻が早くなった。 ・会議のペーパーレス化や会議の精選を行ったことにより、会議の時間短縮が図れている。	A	・衛生委員会や業務記録の振り返り等を通して、勤務実態の共有が図れたことが、在校時間の削減につながっている。 ・校務シェアボードの閲覧機能の活用を推進したことにより、連絡会等の時間を削減することができた。 ・健康観察アプリの導入は、担任の負担軽減につながったと同時に、児童の情報共有が容易になった。	A	・教職員の在校時間の削減ができているようだが、自宅を持ち帰って仕事をしているということはないか。 ・「時間内にできる仕事」という意識で取り組んでいったほうがよい。	・管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○チーム学校としての取組の推進	○地域連携、幼保小連携、小小・小中連携、外部機関との連携の推進	○「効果的な地域連携、幼保小連携、小小・小中連携、外部機関との連携が行われている」と考える教師80%以上	・児童の安全確保や各種行事の効果的・効率的な実施のために地域との連携を図る。 ・小1ギャップや中1ギャップの軽減のために、幼保小連携、小小・小中連携の推進を図る。 ・配慮を要する児童やその保護者の支援のために、スクールカウンセラーやスクールソーシャル・ワーカー等外部機関との連携を図る。	B	・校内研究授業の授業参観を校内の職員だけでなく、三根中学校や三根東小学校にも案内を出し、参観を促した。中1ギャップの軽減のために小中連携・小小連携の推進を図っている。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域との連携を思うように実施できていない。 ・配慮を要する児童のために、定期的にスクールカウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカー、民生委員との情報共有を行い、協力していただいている。 ・特別支援教育エリアリーダーによる訪問指導を活用し、児童理解や児童支援に努めている。	A	・中1ギャップ軽減のため、6年生が中学生から話を聞く「ようこそ先輩」は、昨年度同様、リモートで実施することができた。 ・今年度は、地域の登下校見守りをして下さっている方への「感謝の会」を開催することができた。体育館での開催ができたのは6年生だけで、他学年はリモートとなったが、地域の方に学校での児童を見ていただいていた。その後一部情報共有をしたりすることができて、連携強化につながった。 ・配慮を要する児童については、SSWや民生委員との情報共有を行うことができ、よりよい支援に結び付いている。	A	・昔ながらのよい土地柄が残っている地域なので、それを生かして地域のサポートを受けるのも大切。 ・カウンセラーにいろいろ話せて心の重荷を軽くできた児童がいたのは、よかった。今後も、様々な機関と連携して、悩みを抱えている児童のケアに取り組んでいきたい。	【三校会連携部】 ・教務主任 ・特別支援コーディネーター ・教育相談担当 ・教頭

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・本校は、これまで体育科の学習を通して学び続ける児童の育成を目指して校内研究を進めてきた。ここで培った学び続ける方法や意欲を他教科でも生かしていきたい。 ・本校児童は、読む力や表現力に課題が見られるため、その解決のための対策を検討し、学力向上につなげたい。 ・いじめはどこにでもあることを認識し、より一層の早期発見、早期解決に努める。そのために、毎月のアンケートへの対応や教職員による見取りを丁寧に行ったり、発見や解決のために教職員の研修を実施したりする。あわせて、アンケート内容の見直しも行う。</p>
----------------	---